



無所属  
板橋区  
議会議員

# しいなひろみ 楽しいな通信

ご報告枚数  
**1,530,420**枚  
前号までにお届けした  
枚数です

親子  
3代地元

こんにちは、板橋区議会議員のしいなひろみです。日頃より「楽しいな通信」をお読みいただき、心よりありがとうございます。おかげさまで発行部数は累計150万枚を超え、多くの皆さまに活動報告をお届けさせて頂いております。区議1期目より注力しておりました、「東武練馬駅・下赤塚駅・成増駅」のホーム柵(可動式)の使用が12月より順次開始されました。今後も区民の皆さまからのご要望をひとつでも多く実現させるために、残り任期も全力で取り組んで参ります。お気づきの点やご意見・ご要望がございましたら、どんなことでもお聞かせください。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 令和7年第3回定例会 一般質問概要(令和7年9月24日)



### 1 訪問介護サービス事業所の安定運営支援について

しいな質問要旨

介護報酬改定で訪問介護の基本報酬が下がる一方、区の物価高騰対策支援金は施設系と通所系のみで、訪問介護事業所の経営悪化とヘルパー不足が深刻化している。品川区のように、同一建物減算型を除く訪問介護事業所へ報酬減額分を補う安定運営支援金の創設を求めた。



区長等答弁要旨

訪問介護は他サービスより利益率が高いとの国の調査を踏まえ改定されたと認識している。収入減による廃止増加は現時点で確認されていないが、令和7年度に経営状況調査を行う。区としては直接給付ではなく、ICT・DX化の推進により人材確保と業務負担軽減を図っていく。

### 2 介護人材の確保・定着に向けた居住支援金の創設について

しいな質問要旨

感情労働を伴う介護職は負担が大きいのに賃金水準が低く、世帯主として生活するには厳しい。品川区では区内介護事業所で一定時間働く職員に独自の居住支援手当(月1万円)を支給している。本区でも介護人材の確保・定着策として同様の仕組みを導入するよう求めた。



区長等答弁要旨

介護人材不足は、人材が集まりにくいことに加え離職が多いことが要因と認識している。資格取得費用助成や勤続表彰などを継続実施しており、他自治体の居住支援策も参考にしながら、区内の介護サービス提供が維持できる支援の在り方を検討していく。

### 3 認知症グループホーム入居者への利用料金補助について

しいな質問要旨

認知症グループホームは家庭的な環境で暮らしを支える重要なサービスで、区内には29か所・576人分が整備されているが、特別養護老人ホームより自己負担が高く利用をためらうケースがある。非課税世帯に月2万円を補助する自治体もあり、本区でも利用しやすくするための料金補助制度を求めた。



区長等答弁要旨

グループホームは住み慣れた地域で少人数の家庭的な生活を続ける場として整備してきた。入居率は95%と高く、現状では利用促進のための料金補助の必要性は低いと考えている。

### 4 区直営による地域包括支援センター設置について

しいな質問要旨

少子高齢化の進行に伴い、地域包括ケアと地域共生社会の推進が求められる。民間委託の地域包括支援センターは業務の多様化と人材不足で負担が増しており、他自治体では市直営センターが支援の中核となっている。本区でも3職種有資格者がそろった強みを生かし、19か所のセンターの質の底上げのため区直営センターを設置するよう求めた。



区長等答弁要旨

区直営センターは、主任ケアマネ・社会福祉士・保健師の継続確保など事業継続性の課題が大きいと認識している。一方、センターの業務負担が増していることから、技術的助言機能の強化やDX化の推進などにより、業務改善と負担軽減に取り組んでいく。

### 5 ペットと暮らせる特別養護老人ホームの整備支援について

しいな質問要旨

ペットは家族同然であり、ペットと離れたくない思いから特養入所をためらい在宅生活を続ける高齢者もいる。訪問介護ではペットの世話は対象外だが、ペット共生型特養では入居者がペットと生き生きと暮らしている事例がある。区内19か所の特養のうちユニット型の空室も踏まえ、ペットと暮らせる共生型ユニットを整備する施設への支援を求めた。



区長等答弁要旨

高齢者保健福祉・介護保険事業計画2026では、令和6年度の1施設整備により特養ニーズは概ね充足されたと考えており、新規整備は予定していない。現行特養では衛生管理やアレルギー、安全確保の観点からペット同伴受入れは難しく、専用設備や人員配置、費用負担など課題が大きいため、直ちに対応することは困難である。